

## 巻頭言

# 肉用牛の改良に寄せて

出口孝吉

7月末から8月初にかけて、和牛関係の2つの会合が開かれた。その1つは和牛の審査研修会である。これは去る4月津山市で開催された。全国の和牛減率研究会において改訂をみた新しい減率について、県内の技術者、改良家を対象として行なわれたものである。和牛が肉用牛として大きく転換した今日、今回の審査減率の改正は画期的なものであるといえる。

和牛の現状については問題が多い。飼養頭数において減少している上に、最近の牛価の低落も著しい。子牛の価格は安いにもかかわらず牛肉価格は高いという矛盾、生産と肥育のアンバランス等々、生産、流通。経営上の各般の問題の解明に当ることが必要であるが、先ずその根本をなす改良の問題を解決してゆかなければならない。役牛から肉用牛へ、産肉能力の発揮に重点をおいた改良に変わらなければならないが、この点において今回の改訂と研究会のもつ意義は大きい。しかし改良については従来の審査や登録にとどまらず、能力検定や科学的な育種方法が必要であろう。

その2は中国5県の畜産課長会議が7月31日広島において開催され、和牛振興を中心議題として討議されたことである。従来和牛は中国各県の特産として各県独自に改良されてきたが、最近の牛価の低落と地方農政局の誕生を契機に、共通の問題については各県が共同して国の助成を仰ぐ等強力で推進されることとなった点である。今回の会合では、内用牛

の生産改良、牧野の設置に対する助成、肥育団地の育成等の施策について討議された。

和牛が、食肉資源としての重要性にかかわらず頭数の減少を見ているのは、種々な原因があるが、その1つに経営に対する対策が欠如している点が指摘される。多頭飼育経営の資料に乏しく、指導の指針を求めることができない。従来偏重されていた種畜対策から脱却して自給飼料対策を含めた経営面の改善をはかることが急務であろう。